

1 現行の龍ヶ崎市教育プラン策定後の教育分野における動向や課題

(1)教育環境の変化

- ・龍ヶ崎市教育プランに定める基本方針に基づき、「龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針」を策定（平成30年3月）
 - ⇒令和2年度から、龍ヶ崎版小中一貫教育「龍の子人づくり学習」をスタート。当面は、施設分離型での小中一貫教育を推進することとし、将来的に施設一体型小中一貫校の設置を目指す方針
- ・教育環境の一層の向上を図るため、愛宕中学校と城南中学校の統合を決定（令和4年4月統合）
- ・教育内容の変化
 - ⇒学習指導要領改訂（小学校における英語教育、道徳の特別教科化等）、GIGAスクール構想への対応等
- ・小学校の少人数学級化
 - ⇒令和7年度までに1学級35人へ段階的に移行
- ・インクルーシブ教育の広がり
 - ⇒市内小中学校の特別支援学級に通学する児童生徒の増加。それに伴い、障がいのある子どもと障がいのない子どもが交流する機会も増加
- ・教職員の多忙化解消に向けた働き方改革の意識の高まり

(2)社会環境の変化

- ・少子化の著しい進行
- ・価値観やライフスタイルの多様化
 - ⇒SDGsの普及、外国人増加に伴う異文化共生、LGBTの広がり
- ・情報通信技術の普及
 - ⇒スマートフォンを所有する等、インターネットに触れることができる環境を持つ児童生徒が増加。それに伴い、コミュニケーションや遊びもオンラインで行う機会が増え、関連するトラブルも増加

(3)新型コロナウイルス感染症への対応

- ・学習方法、学校生活、学校行事の実施方法に大きな変化
- ・生涯学習や文化芸術に関する事業の中止・自粛

2 次期龍ヶ崎市教育プラン策定に当たっての考え方

(1) これまでの教育施策の総括と様々な環境の変化に対応した計画作成

- ・現行の教育プランの成果・課題の整理
- ・現行の教育プランの策定後、教育環境、社会環境、新型コロナウイルス感染症への対応など、教育分野を取り巻く状況が変化。それぞれの実態に即した計画作成

(2) 多様な意見を取り入れた計画の策定

- ・様々な市民参画の機会の確保
- ・教職員等の現場の声を反映

(3) 関連計画との整合性を確保

- ・今年度から本格的な策定作業に入る次期最上位計画との整合を図りながら、一体性を持った計画を策定
- ・国の次期教育振興基本計画（第4期）の策定作業を注視して内容を参酌しつつ、本市の実情に応じた計画を策定

